

[様式2 (汚染水処理対策委員会に報告し、一般公開となるものです)]

御提案書	
技術分野	1 (「技術提案募集の内容」の該当番号を記載願います)
提案件名	高機能ストロンチウム・セシウム等吸着剤を用いたタンク内放射性物質固定と選別放流による、現行タンク有効利用と非増設によるタンク問題解消法
提案者	株式会社 AGT
<p>1. 技術等の概要 (特徴、仕様、性能、保有者など)</p> <p>1、砂状高機能ストロンチウム・セシウム等吸着剤 2、これを用いた、簡易型ストロンチウム・セシウム等吸着処理装置 3、管理分別放流システム これらを組み合わせる事による、汚染水保管量低減システム。</p> <p>我々は、横浜国立大学及び横浜国立大学発ベンチャー 株式会社環境レジリエンス の持つ高機能ストロンチウム・セシウム等吸着剤を利用でき、タンク内浸漬により、緊急的なタンク内放射性物質固定化可能な技術を有する。(仮計算で、先日汚染水漏れを起こした1000 トンタンク 1 基当たり必要量 10K g 程度)</p> <p>また、この高機能ストロンチウム・セシウム等吸着剤は、カラム型処理剤として、ゼオライトなどと異なり、通液性に優れるので、現地設置型の簡易処理システムが安価で大量に設置可能である。</p> <p>この技術を用いて、現行タンク内放射性物質の大半が固定可能である。 これにより、タンク内汚染水を概ね以下の3種に分別する。</p> <p>1、現在の堰内雨水等二次汚染水などの軽度汚染水、 2、トリチウムを含有しない、主にストロンチウム・セシウム汚染水 3、トリチウム高含有水</p> <p>対策：全てのタンク内に高機能ストロンチウム・セシウム等吸着剤を浸漬した後、上澄み水をこの高機能ストロンチウム・セシウム等吸着剤を用いた簡易水処理槽を用いて処理する。</p> <p>この際、上記の内、1については、確認後放流、2については、処理後アルプス処理後放流、3のみ処理後アルプス処理後再循環水として利用、若しくは、別途トリチウム処理を行う。</p>	

2. 備考（以下の点など、可能な範囲で御記入いただけますようお願いいたします）

- ・開発・実用化の状況（国内外の現場や他産業での実績例、実用化見込み時期を含む）

当方の提携先である、横浜国立大学発ベンチャー 株式会社環境レジリエンスは、当ストロンチウム・セシウム等吸着剤を日経サイエンスに発表済みである。

本提案は、これを踏まえシステム化しており、ラボレベルでの理論検証は済んでいる。

- ・開発・実用化に向けた課題・留意点

本提案は、ALPS 等高度放射性物質処理を補完し、現場での速やかな一定の処理を行うことを目的としており簡易処理で十分な信頼を得て放流できる低レベル汚染水の迅速処理を主眼としている

- ・その他（特許等を保有している場合の参照情報等）

本技術は、ほぼ完全な国産技術であり、横浜国立大学及び横浜国立大学発ベンチャー株式会社環境レジリエンス が基本アイデアを有している。

3. 補足

添付補足 1. 2. 3. 4 をご参照下さい。

以上

（備考）技術提案募集の内容（6分野）

- ① 汚染水貯蔵（タンク等）
- ② 汚染水処理（トリチウム処理等）
- ③ 港湾内の海水の浄化（海水中の放射性物質の除去等）
- ④ 建屋内の汚染水管理（建屋内止水、地盤改良等）
- ⑤ 地下水流入抑制の敷地管理（遮水壁、フェーシング等）
- ⑥ 地下水等の挙動把握（地下水に係るデータ収集の手法、水質の分析技術等）